

WEST LIFE

校長の目

令和7年10月8日(水)



まずは、昨日の様子から。5・6時間目の1年生は、総合的な学習の時間でした。社会体験チャレンジ（職業体験）でお世話になる事業所に電話をかけ、打合せの日時等を決めていました。手元のファイルには、電話の掛け方や確認事項などのマニュアルがあるものの、みんなこれ以上ないというくらいの緊張感でした。廊下で電話の順番待ちをしている生徒たちも、「めっちゃ、緊張します…」とつぶやいていました。無事にアポイントの電話が終わると、みんなホッとした表情になります。昔は、どこの家庭も黒電話が1台あるだけでしたので、電話の掛け方や受け方については、親の様子を見て自然と学んだものでしたが、今は一人一台スマホです。電話も誰から掛けてきているのかわかりますし、そもそも電話でなくメールやSNS等で連絡を取り合うようになりました。「もしもし…」という話し始めすら、死語になりつつあります。まさに固定電話を使うことそのものが、貴重な体験です。電話を掛けたら誰が出てくるのかわからない、かかってきた電話は誰からなのかわからない、というドキドキ感は過去のものになりつつあります。しかし、不審電話などで犯罪に巻き込まれないとも限らない現代では、ノスタルジーだけで電話を語るわけにはいきませんね。



3年生が美術で取り組んでいる自画像も中盤に差し掛かっています。進みの早い生徒は、水彩で着色に入っていますが、一方でなかなか進まない生徒もいます。「絵が下手で…」とか「全然自分に似ていなくて…」と言って少し描いては消し、また描いては消し、を繰り返しています。絵に苦手意識を持つ生徒は、そっくりに描けないことで自信を無くしてるようでした。私が、「自画像は、自分の内面を表現するものだから、そっくりかどうかは二の次だよ。」と伝えと、少し表情が明るくなりました。また、ある生徒は、「黒で今の自分を表現しました。」とのこと。どうして黒なのかと尋ねると、「受験とかあるし、いろいろと悩んでいるんですよ～」と、にこやかに答えていました。



2年生の英語の授業で女性の敬称について学んでいました。「Mrs」「Ms」「Miss」の使い分けです。辞書で調べる前に、女性の敬称を使い分けるとしたら、どんな場合が考えられるかグループで話し合いました。多くの班で出てきたのは、「Mrsは結婚している場合だから、Msは離婚した女性のこと？」というもの。敬称なのに、離婚したことをわざわざ名前の前に付けるのは、人間関係が悪化しそうです。正解は、Mrsは既婚者の敬称、Msは女性全般をさす敬称、Missは未婚者の敬称ですが、ニュアンスとしては「お嬢ちゃん」といった意味合いが強いようです。



明日10月9日は、校長が出張で不在のため、「WEST LIFE 校長の目」は、お休みします。